



小林 登美子 議員



古河市の大雨災害への対応について

問 ①6月29日に実施予定の古河市水害対応総合訓練の内容はどのようなものか、②古河市水害対応総合訓練以後の防災対策について、以上を伺う。

答（総務部長兼危機管理監） ①自宅から浸水想定区域外のグヨーふれあいスポーツセンターまで自家用車で避難訓練を行うほか、バスによる避難行動要支援者の避難訓練等も行う。②地域防災

勉強会を開催し、地域的特性の説明や発災後におけるスマートフォン活用術を紹介したい。



古河市水害対応総合訓練チラシ（一部）

こどもの居場所づくりについて

問 ①重点施策である「こどもの居場所づくりの支援」の事業内容について、②コーディネーターの役割について、③直近の進捗状況について、④事業の意義と目指す姿について、⑤市が目指す「こどもまんなか社会」について、以上を伺う。

答（市長） ⑤子どもを真ん中に据えることで地域住民との関わりが生まれ、世代を超えた地域関係が育つ社会を目指している。

答（福祉部長） ①施設整備のハード事業ではなくソフト事業であり、居場所づくりに取り組む団体等の育成や運営支援を行う。②居場所運営希望者の掘り起こしや、事業全体のマネジメント等を想定している。③事業者の公募審査を行い、優先交渉権者を決定した。仕様等について整い次第、委託契約を締結し事業開始予定である。④「家以外にほっとできる居場所が少ない」などの子どもの声に、行政として応えることが意義である。「こどもの居場所」を通じて、一人一人の自己肯定感を高めていくことを目指す。



齊藤 由美子 議員



（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）について

問 ①これまでの取り組みについて、②市民の主な意見や要望はどんなものがあつたか、③目指す方向性と基本的な役割について、④必要な施設機能と概要について、⑤概算事業費および財源について、⑥民間活力を使った手法について、⑦今後の運営計画および事業スケジュールについて、以上を伺う。

答（企画政策部長） ①合併時の

新市建設計画において先導的プロジェクトとして文化交流拠点の整備に位置付けられたことから、検討を行ってきた。現在は、市民委員会を設置し、基本構想・基本計画を審議している。②芸術・文化を鑑賞する場、道路や駐車場に恵まれた立地、レストランなどの併設施設を求める意見がある。③誰もが気軽に文化芸術を体感し表現できる空間と、次世代への機会の創出を目指している。役割は、文化の「ド・マンナカ」、にぎわいが生まれ、活気があふれる「居場所」、新たなコミュニティを育てる「よりどころ」、次世代に向けた文化芸術活動の「育成拠点」の4つである。④大ホール1,300席、小ホール300席、創造支援部門はスタジオ4室、

教養部門は学習展示スペース等の機能を持たせる計画をしている。⑤総事業費179億円で、国の補助金といった特定財源で対応する。⑥PFI方式などでの整備を検討している。民間事業者の参加意欲や公共負担の縮減費なども鑑み、事業手法を選定したい。⑦令和9年度末までには事業者を選定し、管理運営計画を策定する予定である。令和10年度から造成、設計工事に約4年を見込み、令和14年度中に運用開始を想定している。

